

ニュース JAFIC EYE №182

11 月におけるサンマの漁況経過

1. 2020 年 11 月の漁況の経過

11 月のサンマ棒受網漁業における生鮮サンマ水揚量は 14,648 トンであった（表 1）。10 月と比べると水揚量は増加したものの、前年の 85%であった。平均価格は 422 円/kg で、前年の約 1.8 倍となった。

表 1. 11 月の生鮮サンマ水揚量と平均価格

	2019年		2020年		前年比	
	数量(トン)	価格(kg/円)	数量(トン)	価格(kg/円)	数量	価格
11月	17,186	238	14,648	422	0.85	1.77

（出典：おさかなひろば）

11 月上旬の主漁場は、釜石東 200～320 海里～女川東 300 海里（漁場水温 12～17℃）であった（図 1）。1 日 1 隻あたり最高漁獲量は 88 トンと 10 月下旬よりも増加した。

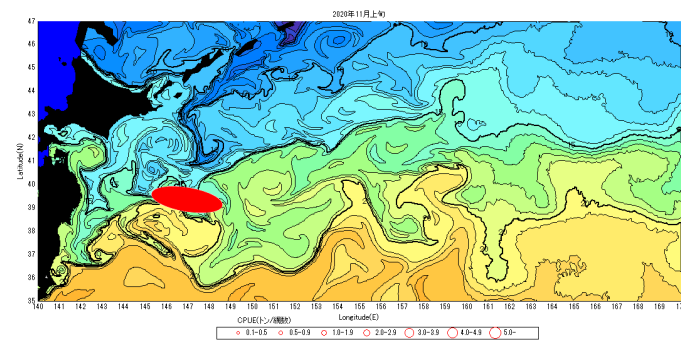


図 1. 今年 11 月上旬のサンマ漁場と海面水温分布

11 月中旬の主漁場は、花咲南南東 210～230 海里（漁場水温 11～16℃）、気仙沼東～金華山東沖の 240～300 海里（漁場水温 12～19℃）、久慈東 180～200 海里（漁場水温 12～15℃）であった。また花咲東南東 390 海里（漁場水温 16℃）、花咲南東 240 海里（漁場水温 15～16℃）、宮古東 120～140 海里（漁場水温 12～15℃）、金華山南南東 40 海

里（漁場水温 16℃）でも一時的に漁場となった（図 2）。1 日 1 隻あたり最高漁獲量は、花咲南南東 210～230 海里で 95 トン、気仙沼東～金華山東沖の 240～300 海里で 48 トン、久慈東 180～200 海里で最高 51 トンであった。

沿岸の金華山南南東 40 海里では、12 日夜に小型船 6 隻が操業したものの、漁獲量は 0.5～1.5 トンと極めて少なかった。

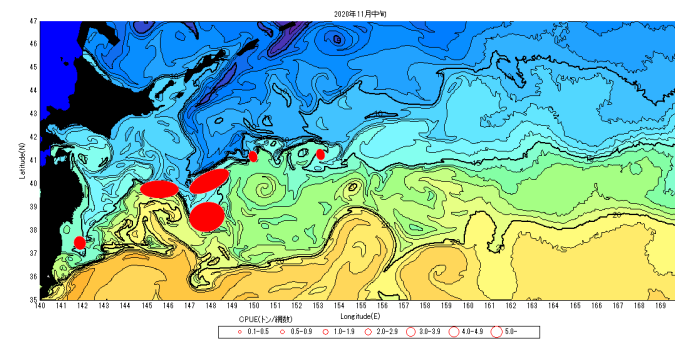


図 2. 今年 11 月中旬のサンマ漁場と海面水温分布

11 月下旬の主漁場は、花咲東南東 240～280 海里（漁場水温 13～15℃台）、宮古東 140～220 海里（漁場水温 10～16℃）、金華山東南東 200～240 海里（漁場水温 12～17℃）であった（図 3）。また那珂湊東 20 海里（漁場水温 18℃）にも漁場が形成された。1 日 1 隻あたり最高漁獲量は、花咲東南東 240～280 海里で 50 トン、宮古東 140～220 海里で 90 トン、金華山東南東 200～240 海里で 10 トン、那珂湊東 20 海里で 3 トンであった。

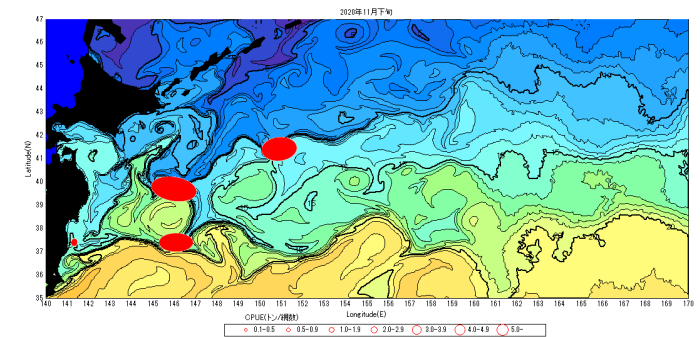


図 3. 今年 11 月下旬のサンマ漁場と海面水温分布

2. 2020 年 11 月の漁獲物

11 月上旬の魚体は体長 26～30cm モード、体重 70～130g 台が主体であった。11 月中旬の漁獲物は体長 26～30cm モード、体重 70～110g 台が主体であった。11 月下旬漁獲物は体長 25～27cm モード、体重 70～90g 台が主体であった。

11 月上旬から体長 27～28cm モード、体重 70～90g モードが徐々に混ざりようになり、体重 110g を超える個体は徐々に少なくなった。11 月 26 日の漁獲物は、体長 27～28cm モード、体重 70～90g モードであった（図 4）。前年は体長 25～27cm モードと 30cm モード、体重 70～90g モードであった（図 5）。11 月下旬で比較すると、今年の方が体長 29cm 以上の割合が少なかった。

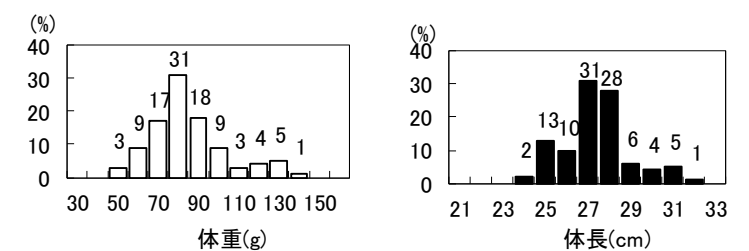


図 4. 今年 11 月 26 日水揚げ物のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図) 2020 年 11 月 24 日夜操業、26 日大船渡水揚げ図中の数値は頻度(％、以下同様)

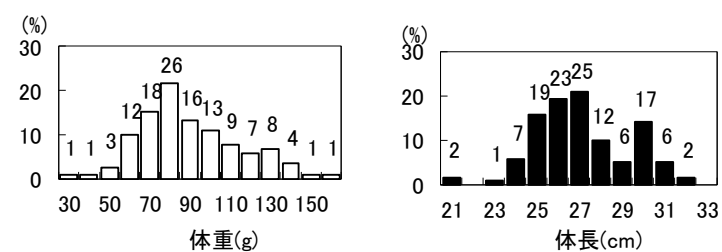


図5. 前年11月25日水揚げ物のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図) 2019年11月23日夜操業、25日女川水揚げ(JAFIC 東北測定)

3. 現状分析

11月下旬になっても漁獲量の船間差が大きく、引き続き群は薄いものの、1日1隻あたり最高90トン漁獲できる

船があった。このことから、少ないながらも沖合からの魚群の補給が続いていたと考えられる。

宮古東140～200海里付近において漁場が持続したが、三陸沿岸の漁場形成は散発的であり、漁獲量も極めて少なかった。これらのことから沖合から来遊した魚群が、東経144～145°付近を北上する暖水に阻まれ、三陸沿岸まで来遊できた群は極めて少なかったと考えられる。また東経147～148°付近を親潮が南下したため、ここを通過した魚群が多く、金華山東南東200～240海里の漁場が持続したと考えられる。

漁獲物は、体長29cm以上の割合が徐々に下がり、主体は体長27～28cmモード、体重70～90gモードであった。缶詰原料として利用できるサイズであり、また漁獲量が少

ないことから、価格はあまり下がらずに推移した。

12月に入り、12月2日には1日500トンを超える水揚げがあったものの、漁獲量は徐々に減少し、多くの船が12月14日の水揚げをもって今期の操業を終えた。残った船もその後時化で操業できず、全船今期の操業を終えた。

漁期を通じた水揚げ量は3万トン前後にとどまり過去最低であったが、平均価格は前年を上回った。

(水産情報部)